

刊夕日一廿月四



定価一冊五錢... 昭和七年四月二十二日

罪惡に生くる人々

眞 繼 雲 山

過ぐる日、久々にて故山に歸り、出家の御馳走として産みだての鶏卵に穴を開けてチユウ〜と吸うたときには我が肉身がズン〜と太つてゆくやうな気がした。

私はその時フト遠い〜昔の幼少の記憶を呼び起した、それはかつての昔、鶏小屋に蛇がついて、いつも〜を卵呑まれて仕舞うので数日間、苦心慘憺の末と〜の泥棒蛇を捕へて退治した、それは兄弟總がかりでの大戦役であつたが彼れはとう〜七分通り死んだ、蛇の捨て役は末弟の私が貧乏くじを引いた「そんな弱いことでどうする」と叱られ自分の身長ほどの青大将を竹の先に吊してもらひ、誰々ながら二丁ほど離れた小川の川尻に捨てに行つたが、視線を竹桿と反對にそむけて、薄気味の悪い命がけの思ひで捨て、は来たが、今でもその時の光景をアリ〜と覚えてゐる、私は幼少の頃から殺生はあまり好きではなかつた斯うした卅餘年前の記憶をフト喚び起した、今にして思ふに鶏卵を一口に呑む

へびと鶏卵をチユウ〜吸ふ自分と他の命を奪ふといふ点に於て何ほど違つてゐるのであらうか。それは恰も殺人強盗は悪夢におびえるが、合法的な殺人は職務として當然と考へ得られるやうなものである、人間のつくつた法律上の約束としてそれを得心して見るものゝ、宗教的な罪惡觀としては何の變りのある筈はない。人間および一切生物の生きてゆくべき得るのは食物を食うからであるが、その食物とは石や金の非常を食ふ譯にはゆかぬ、必ず動物若しくは植物といふ生命のあつたものを食はねば生きてゆけない。たとへば確證であらうと豆腐であらうと一切の食物はかつての生命の失はれたる形に外ならぬ。則ち知るべし一人の生きてゆくためには有情非情いづれにもあれ多くの生命が犠牲となつてゐるのである無生物から生命の生れる事實は絶対に無い、或る生命がその生命を犠牲とするこゝとによつて、他の生命を生んでゐるのである、われわれは他の生命を殺して生き

てゆくことより外に、生きてゆくべき道はない、人生とは犠牲の交換であり、生命の交換であり、若しくはその更新である。他の生命を奪ふて生きてゆくといふことは、宗教的に見て一種の罪惡であるに相違ない、左れど如何に罪惡であるにせよ、この罪惡から免れようとするならばそれは生の否定より外にはない、われ〜は如上の罪惡の道を踏まずして生きてゆくことは出来ない。

この深刻にして大いなる矛盾を宗教的に如何に解決すべきか、安價な法律的の理窟で自己を胡魔化すとせばそれは別問題であるが、然らざる限りはその罪惡を罪惡と知つて念々に懺悔するより外はない、さうしてその罪惡の中に他の生命を食ひ物として生きてゐることを許されてゐるといふ自己は、天地の恩寵の中に生きることを許され、且つ育てられつゝあるものであることを念々に感謝せねばならぬ。

眼を轉じて静觀すれば私たちの日々の生存はまことに罪惡の塚の上に在り、慈悲の恵みの下に生きてゐるのである。宗教とは不平の生活をす

旭硝子株式会社製品

赤菱印

板ガラス

硝子食器

菓子壺

菓子壺

其他各種

松崎硝子製作所

平町新川町(電話一四二番)

支工場 仙臺市榮町 電話五九七番

謹告

今般田町火災の際に類焼致し候爲め左記に於て一層の親切丁寧を旨として營業致す可く候間何卒御引立を賜り度御願ひ申上げ候

◎假營業所

平町田町丸新デパート内

根本時計店

配達敏速

■ 産名城磐 ■

らか鹽と節鯨

魚問屋

店理代平命生本日大最優最

榮盛賀志

番一二三電 目丁四平

耳鼻咽喉科専門

氣管食道科

平南町(電話一七〇番)

大和田醫院

正確な時計

お客様本位の...

好適の眼鏡

平町新川町(電話一四二番)

堀藥局

平町二丁目 電話三二六番

花環

蓮華

造花

新らしく安い

靈柩自動車御用

町川新町平

屋本橋

番三六一話電

堂々

斯界の群を抜く

最高級車プロモス號

今般増車致しました

何卒御用命は

電話三九五番へ

セリザワタクシー

營の澤記念碑が 郷土讀本に採録 功勞者顯彰さる

功勞者顯彰さる

昨日除幕式を舉行した營の澤開道記念碑の選文及び其の揮毫は既報の如く巖谷小波氏の筆になるものであるが今年改訂される平町各小學校使用の郷土讀本に是れが採録され巖谷氏の流暢なる文章と共に功勞者の偉大なる功績が顯彰される事になつて居る因に巖谷氏の選文は左記の如くである

營の澤の切通しは平町の要路である此の開鑿の出来なかつた昔は元長坂

八幡小路の迂路を辿り久保町の峻坂を攀ち往來の不便實に甚しいものがあつた明治十七年十一月先代山崎與三郎、神谷氏務端山惟良、志賀竹次郎、佐々木佐太郎、吉村喜代治、長谷部淳輝の諸氏大いに之を愛ひ奮つて其開鑿を企て地方の特志を仰ぎつゝも公益の爲め私財を棄ち千苦を忍び萬難を排し約

十ヶ月を経て明治十八年九月漸く此難工事を成就し古鍛冶町より久保町に至る約五百間の新道を通ずるを得爾來此の便利に浴するもの幾千萬平町今日の繁榮も亦之に負ふ所が多い然るに事半世記の舊事に屬し當時を知る者漸く稀に隨つ

て其偉功の埋れんとするを憾み

某々有志 等相謀つて

茲に記念の石碑を立てる事となつた蓋し當時者等が不振の誠意の正に此碑石より堅きを示し此碑石の朽ちない限り永く其徳の稱へられん爲である

馬も來ぬ昔を語れと

小波氏の句碑

また記念碑の傍らなる巖谷小波氏の句碑には『馬も來ぬ昔をかたれ萩の花小波』とあり其の側面に山崎與三郎氏の高雅な筆蹟にて『小波巖谷先生營の澤開道碑之に添へて玉吟を寄せ煩せらる乃ち石に刻み並べ建て往來の人と昔を偲び開けし今日を思ひ語らむ昭和六年未年霜月山崎與三郎書』と刻し見る者をして一種の風情を感せしめる

記念碑の

工事報告

木澤氏朗讀

昨日の營の澤開道記念碑除幕式にて發起者代表木澤常松氏の朗讀せる工事經過報告左記の如くである

工事經過報告

本日營の澤開道開鑿記念碑除幕式を舉行するに際し工事經過の概要を述べむとす

營の澤開道開鑿して茲に五十年當時の發行人諸氏が苦心努力の偉勳空しく年と共に埋れむことを憾むや久し、昭和六年二月余等二十餘名發記となり營の澤開道開鑿記念碑建設を企て同年五月縣知事の認可を得て廣く義捐を有志に仰げり、乃ち議を練り材料を撰び地を現地に定め築額は安藤子爵閣下に懇請し碑文は川崎文治氏の翰腕に依り斯界の泰斗巖谷小波先生の撰文並に揮毫に係り工事監督は白土正三、佐々木喜平兩氏之に當り石工は吉田玉峰氏に托し昭和六年十二月据付を竣く工事全く成れり、而して本事業を賛し義捐金を寄附せられ

昨夜深更に至り

分校存止に決定

鹿島村の紛擾一段落

石城郡鹿島村小學校分校廢止問題は上、下矢田部落外四部落の猛烈な反對となり七十餘名の児童は同盟休校を斷行紛争を極めてゐたが縣當局の調停斡旋の結果同村當局では二十日午後三時より村會協議會を開き和平を主眼に協議の結果午後十二時に至り下矢田分校場を

たる士二百三十三人其の金額一千二百餘圓に達せり
△内金百三十圓(撰文家額謝禮) △六十圓仙臺石
△百二十圓臺石 △九十五圓庭石二百餘個 △砂利 △二百八十圓石工作料 △七十五圓基礎工事 △七十五圓碑建設諸材料乃内祝支
出費其他募集費諸雜費百十八圓を支出したり、又巖谷先生より碑文に添へて一句を贈られたるを以て更に句碑を境内に建て一段の光彩を加へたり之が建設諸費金八十五圓を支出せり、尙今後に於て寄附芳名簿調製除幕式に要する諸費及諸報告經費等合計約金一百十圓の支出を要する見込なるを以て收支精算は他日詳報すべし以上工事經過概況を報告す
昭和七年四月二十日
發記人總 木澤常松

出征兵慰問

平消防管鑰會

平消防組の管鑰會では此の程日支事變の從軍後援會を組織し組員の夜警手當より據出して同組出身の出征兵柳原徳藏、柏原英介、高田清二の三氏並に川上瀧次郎氏遺族を以て金一封の見舞金を贈つたが尙義勇機關島建設資金には金三十圓の寄附をなした

渡邊青年總會

石城郡渡邊村青年團では昨日午前十時より同村小學校に於いて總集會を開催後團員並に附近村落の選手により剣道大會を行つたが成績左の如くである
△個人試合(一等渡邊)小野清太(二等泉)馬上八郎(三等泉)齋藤幸吉
△分團試合(一等字洞分團)二等字松小屋分團、三等字泉田分團

磐城炭礦保險

石城郡内郷村磐城炭礦健康保險組合では来る廿日の結核豫防デーを記念すべく當日より五月上旬迄組合員より結核並にトラホームの豫防標語を懸賞付にて募集して豫言及を書る事になつた

吳永淳に 懲役八ヶ月

けふ平區で判決

相馬郡原ノ町居住朝鮮人吳永淳事、ペンキ職西丸政雄(三)が平町字大町只野清外一名より合計百二十圓を騙取したる詐偽事件は去る十九日平區裁判所に於て公判開廷檢事より懲役十ヶ月求刑された事は既報の如くであるが本日午前九時より公判開廷佐々木判事より懲役八ヶ月言渡された

金庫専門の 怪賊捕はる

窃盜も十數件

昨夜十時頃平署員が湯本町字八仙地内を密行中勞働者風の男の徘徊するのを怪み取調べると懐中に出入刃丁と五寸釘を所持してゐたが同人は湯本町字日渡六十居住無職荒川文吾(四)で昨年七月卅一日内郷村カフエーナイス方及び同村宮澤の佐川茂治方に忍入りいづれも手提金庫を破つて現金を窃取した外金庫のみで五件、ソ泥十數件を行つた事自白したので餘罪取調中である

蕉雨書伯が來平

昨年夏平町同好者の招きに應じて約一ヶ月の間平、小名濱に滞在揮毫して歸られた會津の野出雲伯は此度亦復小名濱有志の招きに應じて去る十六日より同地に赴き揮毫中なること平町同好の士等聞き及び其歸途亦依頼せんとする者二、三名現はれ

たるを以て同翁も三、四日間高久病院木兎莊に滞留例の麗筆を振ふとの事故他に希望の方もあらば至急に高久氏方にお申込みを乞ふとの事である

平商の遠足

平商業學校では来る二十六日全校生が關ヶ井嶽へ遠足運動をなすと

平職業紹介所報告

職求人 の部

- △金物店員 十四才 尋卒 仕着外三圓位(平某店)
- △下駄製造見習 十六才 尋卒 仕着小使(赤井村某)
- △石工見習 十五才 尋卒 仕着小使(平町某)
- △大工見習 十七才 尋卒 仕着小使(神谷村某)

職求職 の部

- △倉働 三十二才 高卒 給料面談(伊達郡築川町某)
- △看護人 五十二才 尋四 給料面談(平町某)
- △女中 四十三才 高卒 給料面談(内郷村某)
- △自動車助手 二十八才 高卒 給料面談(内郷村某)

一冊の代金で 御希望通りな

五冊の雑誌が 自由に讀める

川崎文庫

電話六三〇番
(申込次第規則書進呈)

あす磐中講堂に開く

第三回縣下統計大會

協議事項と受賞者氏名

既報本縣第三回統計大會は明二十二日午前十時より磐中講堂に於て開催されるが當日は村井本縣知事を初め赤土内務部長、吉田統計課長、内閣統計局長の諸氏が臨席する外縣下會員千二百名出席の筈にて左記順序に依り開會されると

△開會の辭△統計功勞者表彰△知事告辭△來賓祝辭△協議△午後一時より講演△會員演說△閉會の辭

尙當日の協議事項及表彰者は左記の如くである

△協議事項

一、統計協會聯合會へ縣費補助請願の件

(安達郡統計協會)

(双葉郡上岡村)

一、産業統計調査員任命に關する件(耶麻郡吾妻村)

一、市町村統計費補助の増額請願の件(西白河郡統計組合)

一、統計組合の設置助成に關する件(石川郡統計協會)

一、統計事務視察費補助の件(石城郡統計協會)

一、中堅青年養成統計講習會開催の件(田村郡統計協會)

一、産業統計調査員徽章に關する件(相馬郡統計協會)

貨物展覽會

平地方の特産出品

自動車の發達で鐵道省に於ける収入統計は毎月赤字の連續である結果是が對策として東京鐵道局では今回管内各地の特産物を積載した貨物の移動展覽會を東北六縣北海道方面を五月十日頃より一ヶ月間巡廻せしめる事になつたので同鐵道局管内たる平町附近各方面に出品方を勧誘し來り本月十八日には水戸運輸事務所にて出品方の打合せを行つたが鐵道方面で平町附近特産物として指名されたのは左記の如くで尙一般希望者の出

品申込は東京鐵道局長宛に平驛へ提出され度いと

品川耐火煉瓦(湯本)土甕

郡農會幹旋の果樹類(平)

石炭(綴、勿來)炭化石灰(勿來)

片山八郎君

けふ平驛着

在滿獨立歩兵第五大隊第四中隊員として出征せる平町紺屋町の片山八郎氏は本日午後四時三十六分平驛着列車にて凱旋したので在郷軍

人分會員、青年團等が驛頭に盛大な歡迎をなした

花見歸りに

醉漢轢る

平町仲間町居住保線工手山田三五郎(三)は昨夜十時頃松ヶ岡公園にて花見の歸途泥酔の結果道を間違ひ内郷村字小島地内を通行中前方より來た湯本町鈴木自動車店運轉手佐藤信秋(三)の運轉せる乗合自動車と避けんとしたのが衝突され頭部其他に至治三週間の傷を負ふた

賑ふ松ヶ岡

平驛の乗降者調べ

二三日連續して風雨に惱され折角の花見と博覽會見物客は昨朝の好天に誘はれて休日外としては珍らしく流れ込み平驛の到着列車はいづれも滿員の有様で昨二十日同驛の乗降者數を見ると乗客四千九百二十六人降客五千二百六十名計約一萬の出入を見今月最高の出入を見た十七日の一萬八千餘名に次ぐ入出であつたが正午頃より襲來せる變體的雷雨に見舞はれて歸りを急ぐ者多く大半四時頃迄には引上て了つたが廿一日は郡下町村議員大會其他で入出多非非常の賑ひを見た

平一研究教授 平第一小學校にては來る二十五

明日のラジオ

廿二日

報豫氣天

今晚は北西の風晴れた曇つたり明日は天氣よき見込

今晚の部

後六、〇〇 子供の時間

パンデュー 獨奏と歌

テゾーグ ピアノ石田房

後六、三〇 英語講座「中等科」五 佐川春水

後七、三〇 講演「出雲と小泉八雲との因縁に就いて」根岸磐井

後八、〇〇 バイブオルガ

明日の部

前九、一〇 料理献立「小鯛の蒸籠蒸し」松本良雄

後九、三〇 奉天より

後九、四〇 全國ニュース

氣象通報 番組豫告

罰金と科料

検事局大困り

平區裁判所検事局の統計に依ると現在罰金の未納者百餘名にて此金額三千二百圓科料七十餘名にて此金額六百圓であるが此れが整理には當局も殆ど持て餘しの氣味で結局止むなく近く逮捕状を出しどしどし處分する方針に決定した

一味八名に罰金刑

けふ平區で判決

双葉郡野村大字西臺農松本武兵衛(六)同農佐藤宗太郎(三)同牛馬商齊藤秋次郎(五)同石工井戸川安兵衛(三)同牛馬商川久保民造(三)同石工渡邊彌十郎(三)同農井戸川甫(三)相馬郡福浦村大字上浦井戸川政輔(三)の八名は昨年十二月頃武兵衛方に於て三回に亘り花札を使用し賭博博を爲し武兵衛

板の間専門

平署に捕はる

石城郡内郷村字高坂野崎合

盗み廻る

若者捕はる

昨廿日午後九時頃石城郡内郷村御座地内を一青年が無燈火にて通行せんとしたのを密行中の平署員が取調ると懷中に肉切庖丁と懷中電燈を所持して居たので平署に引致取調ると同人は栃木縣那須郡賀川町生れ住所不定小林三郎(三)と云ふ者で去月中平町にて窃取せる自轉車にて平内郷方面で窃盜數件行つた旨自白したので目下嚴重取調中である

前二〇、三〇 家庭講座

後〇、〇五 說教節「阿古屋住家の段」若松若太夫

後二、〇〇 趣味講座 野口みづく

後五、三五 聯珠講座其ノ二 聯珠實戰と解説「半澤三男外」

後六、〇〇 子供の時間 お話「子供の川柳」西島義豊

後七、三〇 講演

後八、〇〇 旅送歌劇「ボニーム」東京府荏原町交響樂團練習所より中繼

後九、〇〇 浪花節「安政疑獄頼三樹三郎」京山若丸

後九、三〇 奉天より

宿所居住坑夫宮城縣栗京郡柳町生三浦忠雄(三)は廿日午後八時頃同村高坂の磐坑夫風呂に入浴中の坑夫山田吉之助所有腕時計時價十圓餘を窃取して平署に檢舉されたが同人は去月廿五日にも同村綴の職工風呂場にて裏眼鏡等を窃取せる事自白したので目下餘罪取調中である

豪傑剣士

〔禁輿載上演及映畫〕

悟道軒圓玉演
近藤紫雲畫

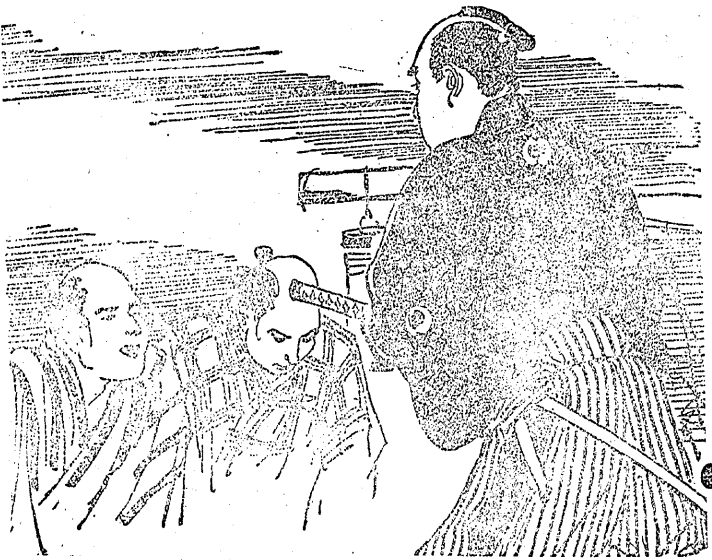
〔第卅二席〕 神影流の達人秋山要手

師匠からの頼み

三次を乗せた駕は次第々々に六地藏へ近付く。それに付添ふ秋山要介。要「三次大分墓場へ近くなつたぞ、こゝから四五丁歩れば六地藏だ、オ、向ふに見るか竹箆らしい、あの中に八五郎が鐵砲を持ち、この駕の来るを待ち受け居るであらう、ズドンと一發貴様の脇腹を貫くか但しは首を射つか何事も成行きに任せ置け」

三次は口を手拭で縛られてゐますから聲を揚げる事が出来ない、此方は蠅の八五郎鐵砲に彈丸を込めて、から首を出して向ふを見る。とチラ／＼灯を映す、来たナ、あいつは提灯の光りであらう、秋山要介がどれ程の名人でも鐵砲といふ飄輕者には敵ふめえ、来る／＼／＼オヤ／＼灯が消えたがこいつは困つたナ、イヤ此處へ来たなら駕を目標にし打つ放したらば、なんとかなるだらう、灯が無くとも駕の中に人の居る事は判るであらう、近寄つた駕その距離は五間あまり、火口をさしガチンと引鐵を引いた、ズドン響き渡る銃聲、八

五郎は鐵砲を提げてヒラリと敷から飛出した、其の時躍りかゝつた要介は例の鐵扇にて小手を打つた、ポロリと鐵砲を落した八五郎しまつたと云ひながら逃げよとすると要介は足を飛ば



して腰を蹴つたので筋斗打つて前の流れへ落ちた、スルト地藏堂の後に居た周助が竹槍を持つてそれへ躍り出し

要「逃げるナ」
八「身體が痛みとても逃げることが出来ません、どうぞ助け下さいまし」
要「憎い奴だ」
八「それにしても確にこのかごには人がいたやうでございませう、誰が入つて居りました」

要「この中には三次が居るぞ」
八「エッ三次が居りますとヤイ三次どうした」
と這ひ寄つて垂を揚げて見ると顔は赤く染たやう血を吐いてウーンと唸つてゐる、これは彈丸が鼻を掠めて外れた、それですから口を縛した手拭を脱れたが鼻を半分無くなつた、その上左の耳がこれも半分無い、はな／＼／＼みにくい顔になつた、要介はこれを驚と見て要「三次命には別狀無いぞ氣を確にもてさて、弱いな奴だ」

と云つたが之は三次ならずとも耳と鼻が無くなれば苦しみます、時に要介が八五郎と周助に對ひ要「如何なる宿意あつて俺を殺さうと企らみ居つたか貴様達に遺恨を受ける覺えは無いぞ」
八「お助け下さいまし、これも逸見先生の身と思つてした事でございます」
要「なんと申す逸見の爲にした事だと、それはどう事かその仔細を申せ」
八「へエお前さんが逸見先生と試合をする事になりましたが、逸見先生はお前さんを打込む事は出来ねえ、それですから逸見先生はお前さんを大事にする、それは自分の身が恐ろしい爲然しそればかりならようございませう、お前さんは先生の看板を外して行きなすつた事がある、それほど恥をかゝされながら秋山先生と云つて尊ぶは逸見先生

首筋を打つた、ワツと云つて周助はそれへ打倒れるそこを二つ三つ續けて打据え

要「それで俺を殺さうとしたか、それは其方共の一存ではあるまい逸見と謀し合していたせし事であらう、逸見は恥辱を受けながら俺を賓客として手厚く待遇いたすは合點ゆかぬ事と存じたがそれは油断をさせる方便、其方共に申付けて俺を鐵砲にて射殺さんと圖り居つたが不埒至極、この返報いたし給へ」

要「この中には三次が居るぞ」
八「エッ三次が居りますとヤイ三次どうした」
と這ひ寄つて垂を揚げて見ると顔は赤く染たやう血を吐いてウーンと唸つてゐる、これは彈丸が鼻を掠めて外れた、それですから口を縛した手拭を脱れたが鼻を半分無くなつた、その上左の耳がこれも半分無い、はな／＼／＼みにくい顔になつた、要介はこれを驚と見て要「三次命には別狀無いぞ氣を確にもてさて、弱いな奴だ」

と云つたが之は三次ならずとも耳と鼻が無くなれば苦しみます、時に要介が八五郎と周助に對ひ要「如何なる宿意あつて俺を殺さうと企らみ居つたか貴様達に遺恨を受ける覺えは無いぞ」
八「お助け下さいまし、これも逸見先生の身と思つてした事でございます」
要「なんと申す逸見の爲にした事だと、それはどう事かその仔細を申せ」
八「へエお前さんが逸見先生と試合をする事になりましたが、逸見先生はお前さんを打込む事は出来ねえ、それですから逸見先生はお前さんを大事にする、それは自分の身が恐ろしい爲然しそればかりならようございませう、お前さんは先生の看板を外して行きなすつた事がある、それほど恥をかゝされながら秋山先生と云つて尊ぶは逸見先生

としては腰の提げた仕方だところであつち共は逸見先生の弟子でござんすからいろ／＼と相談いたしまし

要「それで俺を殺さうとしたか、それは其方共の一存ではあるまい逸見と謀し合していたせし事であらう、逸見は恥辱を受けながら俺を賓客として手厚く待遇いたすは合點ゆかぬ事と存じたがそれは油断をさせる方便、其方共に申付けて俺を鐵砲にて射殺さんと圖り居つたが不埒至極、この返報いたし給へ」

八「どうぞ先生私共はお助け下さいまし、師匠から頼まれて見ればいやとは云はれませぬ」
と申したが悪い奴があつたもの己れの命を助ける爲に此事は逸見から云ひ附けられた事だと申した。

内科 小兒科 花柳病科

藤沼醫院

入院應需

平電話 〇五七番
町屋紺

専門 内科一般

宅診 内科は何でも診療致します
往診 呼吸器病ばかりではありません
平町南町六五

川井内科診療所

醫學士 川井重子
醫學士 川井安子

全國知名新聞 朝日、東京日々、大阪毎日、富士、雑誌 推獎 講談俱樂部、主婦之友廣告御參照

右は岩里家古來よりの家傳秘法藥にして男女血らし慢性淋病、こしけ、濁濁の病みは不思議に止り連服するも絶對胃腸傷害なき各業であります。

尙ほ此の藥は責任速効藥で二日内服して効なき時は殘藥引換に全部異議なく返金します。

論より證據服藥した人は皆全快喜んで居ります。慢性、悪性の人は七日以上服差して下さい。

美本淋病治療書無代進呈 此の新開各記入申込者に付前金申込者には送料無料、新品送藥す。

代金引換廿三錢手數料金納の事。

藥價 急性用(黒箱) 一週分 參圓
慢性用(赤箱) 一週分 五圓

特約 一 平町古鍛冶町一〇
手販賣 阿康藥舖

縣社ノ下(電話四四番)

磐城セメント會社特約店

久全屋瓦商店

磐城平町五丁目 電話九番九九番

□良品廉賣に勝る商略なし

□確實敏捷はの生命なり

りん病 永らく悩む人の福音

こしけ 天下の名湯別府温泉で出來た無効返金責任藥

商標